

2009年9月15日

ミレニアムプロジェクト企画会議及びWFS年次大会報告

松本 信二（日本未来学会常任理事）

国際NPOミレニアムプロジェクトの企画会議が2010年7月6日～8日に米国ボストンで開かれ、日本代表として出席してきた。また、この企画会議と同時に開催されていたWFS (World Future Society)の年次大会にも参加してきたので、この2つの会議の概要を報告する。

1. ミレニアムプロジェクトについて

ミレニアムプロジェクトは、国連大学アメリカ協議会（ACUNU）が1996年から実施しており、一昨年まではメインスポンサーが国連大学あるいは国連協会世界連盟であった。しかし、昨年からは国際NPOの完全に独立した組織として活動している。いずれにしても、プロジェクトの内容はこれまでとまったく変わらず、継続されている。グローバルな（地球規模の）問題に対して、世界各国にノード（拠点）をおき、調査活動を継続的に行っている。2000年以降、日本未来学会が日本の窓口となり、松本信二が代表（日本ノード・チェア）となっている。

このプロジェクトの調査結果については、毎年報告書を出版しており、本年も7月に、“2010 State of the Future”が発行された。本学会の会員の中で、アンケート調査等にご協力いただいた方には、ミレニアムプロジェクトからCD付の報告書が直接送付される予定である。

その他の会員でこの報告書を読みたいという方は、日本未来学会事務局（未来工学研究所）に問い合わせいただきたい。必要ならば、US\$49.95で購入することができる。なお、10冊以上注文する場合には、40%割引ということになっている。

ミレニアムプロジェクトで取り上げている15の地球規模の挑戦的課題は、以下のとおりである。この15の課題は逐次見直しを行っている。

- (1) 持続可能な開発
- (2) 抗争のない水の供給
- (3) 人口問題と資源のバランス
- (4) 独裁主義から民主主義への転換
- (5) 長期展望に基づく政策立案
- (6) グローバルな情報活動
- (7) 貧富の差を縮小するような倫理的市場経済の形成
- (8) 新しい疫病や再出現の疫病による脅威
- (9) 研究機関の変化に対応した意思決定のあり方
- (10) 民族間抗争、テロ、大量破壊兵器を減少させるための戦略
- (11) 女性の立場の改善

- (1 2) 国際組織犯罪ネットワーク強化の防止
- (1 3) 安全で効率的なエネルギーの供給
- (1 4) 人間社会を改善するための科学技術の推進
- (1 5) 地球規模の意思決定における倫理的な配慮の定着

ミレニアムプロジェクトでは、この 15 の課題に関連して、各種のデルファイ調査、インタビュー調査、シナリオ作成等を行っている。各種の統計数値を用いて未来指数 (SOFI: State of Future Index) の算出も行っており、毎年更新している。また、未来研究の手法に関しても、常に研究をしており、主要な研究手法 (デルファイ調査、シナリオ作成等) をまとめた CD " Future Research Methodology " (Version 3.0) (英文) も販売している。参考までに閲覧してみたい方は、本学会にも一部保管しているので、貸し出すことも可能である。最近力を入れている手法は、RTD(Real Time Delphi)であり、コンピューターネットワークを最大限に活用したデルファイ調査の方法である。この手法は、いわゆるデルファイ調査に用いるだけでなく、優先順位決定、意思決定などに広く活用されている。

2 . 企画会議について

企画会議は、最近では、年に 1 回開かれている。W F S (World Future Society) 年次大会と同じ場所で同じ時に開かれるので、7 月中旬から下旬にアメリカの主要都市で開催される。今年も、ボストンで開催された。この企画会議では、ミレニアムプロジェクトにおける 1 年間の実績報告と今後の計画について意見が交わされる。その他に、各国のノードにおける最近の活動状況が報告され、情報を交換する。

今回の企画会議は、7 月 6 日 (火)、7 日 (水) 及び 8 日 (木) の 3 日間にわたって開催され、24 カ国、57 人の委員および関係者が出席した。また、Second Life というコンピューター・システムを用いて、Virtual 会議が試みられ、遠隔地からの会議参加も可能となった。

7 月 6 日 ~ 8 日の企画会議における主な報告事項と決定事項は以下のとおりである。

(1) 最近の主な実施事項 (報告書 " 2010 State of Future " に記載)

- ・ 2010 State of Future の出版
- ・ SOFI (未来指標) の見直し
- ・ RT デルファイ (Real Time Delphi) 手法の活用
- ・ 環境セキュリティーに関する動向調査
- ・ ラテンアメリカ 2030 調査
- ・ 水シナリオ (UNESCO) プロジェクト (<http://www.unesco.org/water/wwap>)
- ・ Arts & Media ノード (ロスアンジェルス) の設立
- ・ 2009 State of Future の翻訳 (スペイン語、アラブ語、中国語、韓国語、ロシア語、ペルシャ語)

(2) 今後の主な実施事項

- ・ 2011 State of Future の出版
- ・ 環境セキュリティー月例報告書作成
- ・ 地球エネルギー問題の情報ネットワークの構築
- ・ ミレニアム賞の新しい展開（メキシコ・ノード）
- ・ SOFI 調査の継続
- ・ スポンサーの増加

（3）最近のトピックス

・ R T D（リアルタイム・デルファイ調査方法）の応用が広がっている（UNESCO 水開発シナリオや韓国・南アフリカにおける実施例）。ミレニアムプロジェクトの各種企画の検討にも活用している。

・ 2015 年に、“Millennia 2015” という国際会議をヨーロッパで開催するための準備が進められている。この会議のテーマは「未来における女性の役割」である。この会議の検討にも R T D が用いられた。

（5）各ノードからの報告

- ・ 各国のノードから最近の実施事項と今後の計画について報告があったが、特に熱心に活動しているのは、韓国、ラテンアメリカ（ベネズエラ、メキシコ、アルゼンチン、ブラジル）である。韓国は 6 年前から参加しているが、政府のバックアップもあり、各種のシンポジウムを多く開催し、未来研究に力を入れている。最近は、Global Climate Change Situation Room を設立し、地球環境問題に取り組んでいる。
- ・ ラテンアメリカ及びアフリカ諸国はミレニアムプロジェクトからの予算的な支援もある。メキシコはミレニアム賞の発案者であり、この賞の実施に毎年力を入れている。
- ・ 新しく設立された Arts & Media ノード（本拠地 ロサンゼルス）では、他のノードとは違い、文化・芸術的なトピックスの動向を調査していく。
- ・ 日本におけるミレニアムプロジェクトへの取り組みは必ずしも活発とはいえないが、いろいろな機会にミレニアムプロジェクトの活動状況を報告し、昨年は、2009 State of Future 概要版の日本語翻訳を行い、未来学会会員に配布した。

* ミレニアムプロジェクトの概要及び企画会議の概要については、ミレニアムプロジェクトのホームページ（<http://www.stateofthefuture.org>）からも情報を得る事ができる。

3 . W F S（World Future Society）年次大会

今年の W F S 年次大会は、7 月 8 日から 10 日にかけて、ボストンで開催された。参加者は約 600 人であり、大部分がアメリカ、カナダからの出席者であった。オーストラリアおよび韓国からの参加者も多かった。日本からは、筆者等およびミレニアムプロジェクト事

務局の小林隼人さん、京都産業大学の水田和生名誉教授および札幌大学の御手洗昭治教授（日本交渉学会会長）4人であった。

多くの課題が平行に議論されるので、限られたセッションにしか出席できないが、いくつかの興味あるトピックスについて、その概要を述べる。なお、来年のWFS大会は、2011年7月にカナダのヴァンクーヴァーで開催される。

(1) 韓国における Global Climate Change Situation Room の設立

韓国は、政府機関が中心となって、Climate Change Situation Room を設立した。この施設はギムチョン市に造られ、気候変動に関する世界中の基礎データをできるだけリアルタイムに収集・配信するものである。このプロジェクトの企画に関しては、ミレニアム・プロジェクトも協力している。詳しくは、以下のURLを参照していただきたい。

(<http://www.gccsr.org/>)

(2) Singularity の概念

Singularity は未来学者の Ray Krzuweil が提唱している新しい概念であり、いわゆる先端技術と人間性（倫理）を一体化させようとするものである。この概念を実現する目的で NASA Ames キャンパス内に University of Singularity を設立し、既に教育活動を始めている。ミレニアム・プロジェクトの何人かの主要メンバーもこの大学に関わっており、今後の展開が大いに期待される。Ray Krzuweil 氏の活動に関しては、以下のURLを参照していただきたい。

(<http://www.kurzweilAI.net/>)

(3) Collective Intelligence (集団的知性)

組織化されていない多くの人の知性を活用して有用な知性（知識）を形成しようとするものである。もっとも分かりやすい実例は、インターネットによって広く活用されている Wikipedia である。これは、集団的知性（知識）によって造られた用語事典である。専門分野や経歴の異なる多くの人に関わることによって、比較的レベルの高い事典が提供されている。このような集団的知性は、未来研究においては、古くから実用化され、デルファイ法はその典型的な手法の一つである。信頼性などの問題点もあるが、今後、さらに多くの分野で活用される可能性がある。特に、教育分野では、新しい展開が期待できる。マサチューセッツ工科大学には Collective Intelligence (集団的知性) センターも設立され、基本的な研究が進められている。

(<http://cci.mit.edu/>)

以上

* ミレニアムプロジェクト及びW F Sに関するお問い合わせは、松本信二
(shinji@csp.co.jp) までお願いします。